薩摩郡医師会病院看護部長室便り

NO66：平成29年12月号

褥瘡ケア研修

12月12日（火）鹿児島市立病院より皮膚排泄ケア認定看護師　真方美紀先生をお招きしました。先生は9月から当院の熱傷患者さまが市立病院受診の際にDrと共に継続的に診療に関わってくださいました。その縁で当院の褥瘡患者さまについてもメールで遠隔コンサルティングをいただくことができました。先生のコメントは常に我々のケアを支援して勇気づけてくださいました。是非、年内に先生の講義を依頼しようと思い、実現出来ました。
講義前に3事例の創を見ていただき、色々なアドバイスをもらいました。院長はじめ薬剤師、リハビリ、栄養士の参加もあり、褥瘡チームの意欲を感じました。講義では「褥瘡の評価」「ポジショニング」「局所ケア」について詳しく説明していただき、今後の褥瘡ケアに生かせる貴重な講義内容でした。褥瘡予防に必要なポジショニングと圧抜きを徹底させ、発生後はDESIGN-Rでの評価と栄養管理、褥瘡回診での適切な局所ケアの決定と実施を行ってほしいと思います。

フットケア研修

12月4日（月）フットケア熊本より竹永先生に来院していただき20名の参加者で開催しました。
様々な足病変を紹介していただき、フットケアの重要性を学びました。患者さまに多いのが肥厚爪、巻き爪ですが、ニッパーやゾンデを使用した爪切りの技術が必要です。研修では爪切りの実習はなかったのですが、爪の手入れの方法と必要性について理解できました。
今回は自分たちの足を評価する演習をしましたが、人それぞれ足・爪の形が違うことを再確認しました。他にも外反母趾、偏平足、左右差など色々な足所見がありますが、全て歩行に影響し、しいては関節の変形に繋がるようです。まずは自分の足ケアに努めて、仕事では患者さまのフットケアに生かしてほしいと思います。

伝達講習

12月22日（金）2名の伝達講習がありました。

＜看護管理者ファースト研修＞中村新看護師長

8～10月まで28日間の研修でした。中間管理者として必要な知識を多く学び、84名の研修生たちとグループワークを通して意見交換する貴重な体験ができたそうです。今後円滑に病棟運営するためには、師長として何をすべきかを多方面から学ぶことができたという伝達でした。

＜がん看護研修＞手塚輝美看護師

7月に5日間鹿児島医療センターでの研修でした。がん看護の多くの講義の中から、手塚さんがみんなに伝えたいのは「患者とのコミュニケーション」だったそうです。がん患者さんの心情を把握するためにはオープンクエスチョンが大切だということを、事例を紹介しながら良い質問、悪い質問の仕方を教えてくれました。スタッフから「がん患者だけでなく、高齢者の多い当院の患者さまにも活用できる。」との意見も出たり、とても効果的な伝達講習でした。

検査室での採血

チーム連携で外来支援！

外来看護体制を業務改善していきます。
①健診に検査室が採血業務を担当
②日曜日の看護師長日直
③2階病棟で土日祝日の救急応援

2階スタッフの救急応援オリエンテーション

看護部長のつぶやき

今年も残り数日となりました。一年間お疲れ様でした。29年は5名の新人看護職員が仲間入りし人材的にも年齢的にも潤った年でした。看護部スタッフの勤勉な業務姿勢に感謝するとともに、他部署スタッフの方々にチーム医療に参入していただけたことにお礼を申し上げます。平成30年もよろしくお願い申し上げます。

H29.12.25